生活日本語

1. 内容体系及び達成基準

ア．内容体系

|  |
| --- |
| ※ 内容体系は、以下に示された「言語資料」に基づく。  ※ 文法は、日本で発行された「日本語文法事典（日本語文法学会編）」、「新版日本語教育事典（日本語教育学会編）」、「現代日本語文法（日本語記述文法研究会編）」などの内容を参考にする。  • **発音と文字**: 日本語の標準的な発音と現代かなづかいに従う。  • **語彙**: 高校の通常の日本語教育カリキュラムの中で提示されている基本語彙（[表1]）を中心に、約200語前後の単語を用いることを推奨する。  • **文法**: 「生活日本語」の教育課程で提示されている[意思疎通の基本表現]の文法内容を参考にする。  • **コミュニケーション表現**: 「生活日本語」の教育課程で提示されている[意思疎通の基本表現]を中心に扱う。 |

(1)聞く

|  |  |
| --- | --- |
| 主要アイデア | • 音声的な特徴に留意しながら文を聞き、単語を識別したり意味を理解することが聞く力の基本だ。  • 相手の話に耳を傾け、共感する態度は円滑なコミュニケーションの基盤となる。 |
| カテゴリー　　 区分 | 内容の要素 |
| 知識・理解 | • 音声的な特徴（清音・濁音、長音・短音、拗音、拍など） |
| • 単語（基本的な意味）  • 簡単で易しい文節（単語の結合関係）  • 簡単で易しい文章 |
| • 挨拶・自己紹介（出会い・別れ、外出・帰宅、訪問、食事、お祝い、自己紹介、他人の紹介、家族の紹介など）  • 配慮・意思伝達（感謝、謝罪、ほめ、励まし・慰め、断り・辞退、謙虚、遺憾、承諾・同意など）  • 情報交換（存在・場所、時間・とき、選択、趣味・関心、確認など）  • 行為要求（勧誘、警告など）  • 対話の進行（ためらい、相槌、感嘆、声かけなど) |
| 課程・機能 | • 発音を聞いて文字や単語を識別する  • 単語・句・文章を聞いて意味を理解する  • 適切に反応する  • キーワードや大意を理解する |
| 価値・態度 | • 内容に興味を持ち、積極的に参加する態度  • 相手の話に対する尊重と傾聴する態度  • 多様な観点や意見に対する共感と受け入れ |

(2)話す

|  |  |
| --- | --- |
| 主要なアイデア | • 明確な意思伝達のためには、音声的な特徴に注意して話すことが重要だ。  • 基本的な表現を状況に合わせて話すことは円滑なコミュニケーションにつながる。 |
| カテゴリー　　 区分 | 内容の要素 |
| 知識・理解 | • 音声的な特徴（清音・濁音、長音・短音、拗音、拍など） |
| • 単語（基本的な意味）  • 簡単で易しい句（単語の結合関係）  • 簡単で易しい文章 |
| • 挨拶・自己紹介（出会い・別れ、外出・帰宅、訪問、食事、お祝い、自己紹介、他人紹介、家族紹介など）  • 配慮・意思伝達（感謝、謝罪、ほめ、励まし・慰め、断り・辞退、謙虚、遺憾、承諾・同意など）  • 情報交換（存在・場所、時間・とき、選択、趣味・関心、確認など）  • 行為の要求（勧誘、警告など）  • 会話の進行（ためらい、相槌、感嘆、話しかけなど） |
| 過程・機能 | • 音声的な特徴に留意して話す  • 描写したり説明する  • 状況に合わせて話す |
| 価値・態度 | • 相手への配慮および尊重  • 他人との相互作用時の協力的なコミュニケーション  • 積極的な話し方の態度 |

(3)読む

|  |  |
| --- | --- |
| 主要なアイデア | • 簡単で易しい資料を音声的な特徴に留意して音読することは自然な話し方に役立つ。  • 簡単で分かりやすい資料を読み、キーワードや内容を把握することは読解力の基盤となる。 |
| カテゴリー　 　　　　区分 | 内容の要素 |
| 知識・理解 | • ひらがな、カタカナ  • 音声的な特徴（清音・濁音、長音・短音、拗音、拍など） |
| • 単語（基本的な意味）  • 簡単で易しい句（単語の組合関係）  • 簡単で易しい文章 |
| • 簡単で易しい対話文  • 簡単で易しいテキスト（SMS、メール、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)、招待状、メモ、ポスター、看板、標識、マンガ、日記、案内文、広告文など） |
| 課程・機能 | • 声に出して読む  • 単語、句、文章の意味を理解する  • 会話文、文章、デジタルテキストの情報を把握する |
| 価値・態度 | • 読む資料に対する興味  • 多様な観点と意見に対する共感と受け入れ |

(4)書く

|  |  |
| --- | --- |
| 主要なアイデア | • 文法に則って単語・句・文を書くことが文章作成の基本だ。  • 状況と目的に応じて適切な文章を書くことは正確なコミュニケーションのために必要だ。 |
| カテゴリー　　　 区分 | 内容の要素 |
| 知識・理解 | • ひらがな、カタカナ  • 現代かなづかい  • 現代日本語文法 |
| • 単語（基本的な意味）  • 簡単で易しい句（単語の組み合わせ関係）  • 簡単で易しい文章 |
| • 簡単で易しいな対話文  • 簡単で易しいテキスト（SMS、メール、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)、招待状、メモ、ポスター、看板、標識、マンガ、日記、案内文、広告文など） |
| 課程・機能 | • 表記法に合わせて書く  • 文法に合わせて書く  • 状況や目的に合わせて書く |
| 価値・態度 | • 文章を書くことへの興味と自信 |

(5)文化

|  |  |
| --- | --- |
| 主要なアイデア | • 日本文化に対しての理解は円滑なコミュニケーションの基盤であり、文化的な感受性を養う土台となる。  • 相互文化的な観点から日本文化を理解することは、日本を理解し、日本との交流に役立つ。 |
| カテゴリー　　　区分 | 内容の要素 |
| 知識・理解 | • 言語文化（呼称方法、表現的特徴など）  • 非言語文化（身振り、手振りなど）  • 日本の概要（行政区域、地理、人口など）  • 日常生活文化（家庭生活、学校生活、交通、食文化、年中行事、祭り、スポーツ、幸運・祈願、環境など）  • 大衆文化（歌、漫画、アニメーション、ドラマ、映画など） |
| 過程・機能 | • 文化の内容を理解する  • 文化の内容を調査・整理し、報告書を作成する  • 文化の内容をコミュニケーションの状況で活用する  • 日韓の文化の共通点と相違点についてオンライン・オフラインで意見を共有する |
| 価値・態度 | • 日本文化に対しての好奇心  • 日本文化の多様性に対しての認識と包容性  • 相互文化的な観点の認識 |

イ．達成基準

(1)聞く

|  |
| --- |
| [9生活日本語01-01] 音声的な特徴に留意しながら聞いて文字や単語を識別する。  [9生活日本語01-02] 単語、簡単で易しい句を聞いて意味を理解する。  [9生活日本語01-03] 日常生活に関連する簡単で易しい文章や対話を聞いて内容を理解する。 |

(ア)達成基準の解説

・[9生活日本語01-01] この達成基準は、清音・濁音・拗音・促音・撥音・拍・イントネーションなど、発声上の特徴に留意しながら聞いて文字と単語を識別することを意味する。

(イ)達成基準適用時の注意事項

・促音や撥音は、細かく指導するよりも、拍の数を区別できるようにする。

・日常生活と学習に必要な基本的な聞く能力と態度を身につけるため、学習者の生活の身近なテーマを基にした聞く活動が行われるようにする。

(2)話す

|  |
| --- |
| [9生活日本語02-01] 音声的な特徴に留意しながら、単語、簡単で易しい句や文を話す。  [9生活日本語02-02] 簡単で易しい句や文を使って、状況を描写したり説明する。  [9生活日本語02-03] 簡単で易しい意思疎通の基本表現を活用して、状況に合わせて話す。  [9生活日本語02-04] 相手の言葉を尊重し、積極的に対話に参加する。 |

(ア)達成基準解説

[9生活日本語02-01] この達成基準は、清音・濁音・拗音・促音・撥音・拍・イントネーションなど、発声上の特徴に留意しながら単語、簡単で易しい句や文を話すことを意味する。

(イ)達成基準適用時の注意事項性

• 促音や撥音は細かく指導するのではなく、拍の数を区別しながら話せるようにする。

• 学習者が話す活動で間違えた場合、コミュニケーションに支障をきたすことがない限り、その場で修正することは避けて自信を持って話せるようにする。

• 日本人の言語文化の習慣に合わせて指導するようにする。例えば、毎日会う友達同士では「こんにちは」や「さようなら」とは言わないなど、日本人の言語文化習慣を反映して指導する。

• 学習者間のコミュニケーションの際、基本的な対話の礼儀を守るように指導する。相手を配慮し、積極的に対話に参加する態度を身につけるようにする。

(3)読む

|  |
| --- |
| [9生活日本語03-01] 音声的な特徴に留意しながら単語、簡単な易しい句や文を声に出して読む。  [9生活日本語03-02] 単語や簡単な易しい句や、文を読んで意味を理解する。  [9生活日本語03-03] 簡単で易しい対話文や文章、デジタルテキストを読んで情報を理解する。 |

1. 達成基準の解説

• [9生活日本語03-01] この達成基準は、清音・濁音、長音・短音、拗音、破裂音、撥音、拍、イントネーションなど、発音上の特徴に留意しながら単語、簡単で易しい句や文を声に出して読むことを意味する。

• [9生活日本語03-03] この達成基準では、デジタルテキストはスマートフォン、コンピューターなどのデジタルメディアを基に作成された、簡単で易しいSMS、メール、ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、ウェブ文書などを意味する。

1. 達成基準適用時の注意事項

• 促音や撥音は細かく指導するのではなく、拍の数を区別できるようにする。。

• 学習者の認知レベルや言語使用能力を考慮し、読む資料の種類を多様化し、学習者が日常で接することができるメディアを幅広く活用して読む活動に興味を持てるようにする。

(4)書く

|  |
| --- |
| [9生活日本語04-01] かなと単語を正しく書く。  [9生活日本語04-02] 簡単でわかりやすい句や文を表記法や文法に合わせて書く。  [9生活日本語04-03] 簡単でわかりやすい会話文や文章を状況や目的に合わせて作成する。 |

(ア)達成基準の解説

・[9生活日本語04-02] この達成目標は、日本の『現代かなづかい』などの表記法規定や『日本語文法事典』、『新版日本語教育事典』、『現代日本語文法』などの文法規定に合わせて書くことを意味する。

(イ)達成基準の適用時の注意事項

・学習者それぞれの学習レベルとペースに考慮して、単語を書く単純な活動から文法に合う文を完成させる活動まで、レベルに応じた課題を提供するようにする。

・学習者の直接的な経験や日常生活に関連する問題など、学習者の日常生活と関連する内容を素材として活用し、文章作成に対する興味を持ち、書く活動に積極的に参加するようにする。

・学習者の達成レベルを考慮し、辞書や翻訳機などの補助ツールを活用して、学習者が自信を持って書くことができるようにする。

(5)文化

|  |
| --- |
| [9生活日本語05-01] 日本文化の内容を理解する。  [9生活日本語05-02] 日本文化の内容を調査・整理し、報告書を作成する。  [9生活日本語05-03] 日韓の文化の共通点と相違点について、相互文化的な観点からオンライン・オフラインで意見を共有する。  [9生活日本語05-04] 言語文化や非言語文化を含む日本文化の内容をコミュニケーションの状況で活用する。  [9生活日本語05-05] 日本文化について好奇心を持ち、授業や課題活動に積極的に参加する。 |

(ア)達成基準の解説

• [9生活日本語05-01/02/04] この達成基準における「日本文化の内容」とは、(5)文化の領域の「知識・理解」のカテゴリーに含まれる「内容要素」を言う。

• [9生活日本語05-03] この達成基準は、文化の多様性と相違点を認識し、韓国人と日本人が目指す価値などを理解し尊重しながら、日韓文化の共通点と相違点について調査・整理した内容をオンライン・オフラインで発表・討論し、資料や意見を共有することを言う。

• [9生活日本語05-04] この達成基準は、コミュニケーションの状況で日本人の言語文化・非言語文化を活用し、日常生活の文化内容を素材として扱うことを言う。日本語の言語文化の特徴として、依頼方法、承諾・断る方法、称呼方法、褒める方法、表現の特徴などが挙げられる。表現の特徴の例としては、病院での挨拶(お元気ですか、さようならなど)、別れ際に使われる多様な表現(さようなら、お気をつけて、お元気でなど)などがある。非言語文化の特徴としては、自身を指で指す際に人差し指で自分の鼻を指したり、食前食後に両手を合わせる動作などが挙げられる。

(イ)達成基準適用時の注意事項

・学習者のレベルを考慮し、韓国語で遂行することができる。

・発表や討論の内容を構成する課程で、多様なメディアを通じて主題や目的に合う資料を検索・収集し整理する活動を経験できるようにし、日韓文化の共通点と相違点を理解し発表できるようにする。

・学習者が多様なメディアを活用して日本文化の内容を調査し説明する際は、信頼できる機関の資料を活用できるように案内し、情報に対する引用を残すように指導する。

・資料をオンラインで共有する際は、著作権が侵害されないように留意する。

1. 教授・学習および評価
   1. 教授・学習
2. 教授・学習の方向

(ア)言語4技能（聞く、話す、読む、書く）を有機的に統合し、教授・学習を行う。

(イ)学習者が能動的な学習活動を行うようにする。教授・学習活動を設計する際には、学習者の日本語使用能力や学習スタイルなどを考慮し、学習者中心の授業活動を構成し、学習者が課題目標達成のために必要な学習課程を取捨・選択できるようにし、自己主導的な学習が行われるようにする。

(ウ)学習者の特性と達成段階を考慮して個別化された授業が行われるようにする。個別の学習者の日本語能力レベルおよび多様な学習者の要素を理解できるデータを収集し、各自のレベルと要求に合う資料、活動、課題を選択できるようにするなど、個別化された授業環境を提供する。

(エ)多様なデジタル教授・学習ツールを積極的に活用し指導する。各種言語補助学習ツールを活用できる課題を与え、学習者の能動的な参加と相互作用を促進し、学習者が生き生きとした日本語学習を経験できるようにする。

(オ)授業環境や日本語学習の内容によって、多様なオンライン・オフラインの連携学習を設計する。オンライン会議システムやメタバースなどのリアルタイムな双方向プラットフォームを活用し、学習者が積極的に参加するようにする。

(カ)相互コミュニケーションや協力を通じて課題を解決する経験をさせ、これにより他人に対して配慮や共同体の価値観と共に、自己の主体性、問題解決能力、創造性を育むようにする。

(キ)日本文化学習を通じて文化の普遍性と多様性を理解し、相互文化的な観点で日韓の文化を比較し、発表・討論を行うことでさまざまな価値を尊重する包括的な民主市民としての姿勢を身につけるために指導する。

(2)教授・学習方法

(ア)文字や単語よりも表現に重点を置いて教授・学習活動が行われるようにする。

(イ)意思疎通の基本表現を理解し、主題および状況に基づいた学習活動を展開できるようにする。仕事や旅行計画、アンケートなど、多様な主題や状況別の内容を聞いてチェックリストの完成、空欄の穴埋め、インタビューをしたり、ロールプレイや中心内容の理解など、学習者のレベルに合う活動を行う。

(ウ)音声ソフトウェアなどを利用してイントネーションに合わせて話すようにする。ネイティブと自分のイントネーションを比較し、繰り返し話す練習を通じて自然なイントネーションに慣れるようにする。

(エ)絵、写真、メニュー表、図表、掲示板、略図、路線図などを利用し、簡単で易しい文章や対話を聞き、情報を調べたり状況を説明するようにする。

(オ)日常生活で慣れ親しんだ簡単で易しい案内放送、広告、ポスターなどを読み、中心の内容を理解し、対話したり書いたりできるようにする。

(カ)簡単で易しいSMS、メール、ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、ウェブ文書などのデジタルテキストの主な情報を理解し、中心内容を話したり、日本語で入力できるようにする。

(キ)デジタルメディア、かな連想カード、映像教材などを活用して、長音・短音、拗音、促音、撥音、拍、イントネーションなどを区別し、かなを正しく読み書きできるようにする。

(ク)デジタル資料、オンライン検索などを活用して、感謝、断る、依頼、敬称などの日本人の言語文化や身振り手振りなどの非言語文化を理解し、言語文化・非言語文化の特徴に合った表現ができるようにする。

(ケ)多様な実物・視覚・デジタル資料を提供し、日本文化の内容を理解し、生き生きとした直接的な文化体験をできるようにする。

(コ)日本語学習について持続的な動機付けと興味を引くために、ロールプレイ、クイズ、ゲーム、歌などを活用して学習者中心の教授・学習活動が行われるようにする。

(サ) 教師と学習者、学習者同士の活発な相互作用を促す協同・協力学習、問題解決学習、小グループ活動（ペア・グループ・メンター活動など）、タスクに基づいた活動などの教授・学習方法を適切に活用する。

(シ)絵画、写真、映像などを活用した創作物をつくり、創作物をブログやソーシャルネットワーキングサービス（SNS）を活用し共有したり、学習者間で発表・討論しコミュニケーションができるようにする。

(ス)デジタルベースの学習者中心の授業を設計し、拡大して学習者のデジタルリテラシーを育て、日本語学習のために正しいメディアの活用法を身につけるようにする。

(セ)教育情報技術を活用したオンライン・オフラインの連携した授業モデルを開発し、生徒ごとの学習データを活用して学習者のレベルに合う段階的な課題を提示し、フィードバックを通じて効率的な学習が行われるようにする。

(タ)スマートフォン、タブレット、コンピューターなどのデジタルメディアを活用し、学習者のレベル、特性、状況に応じて活動や課題を遂行できるようにすることで自己主導的な学習が促進されるようにする。

(チ)最低達成水準を確保するために、日本語学習レベルと個別の特性を考慮し個別化された学習活動や協力的なグループ活動をサポートする。これにより、学習者の日本語学習への興味と動機を高め、学習者が自己主導的に学習できるようにする。

4．評価

1. 評価方向

(ア)日常生活と関連した日本語活用能力と能力中心の評価を行うようにする。コミュニケーョン表現を中心に断片的で重要でない知識の評価を控え、志向啓発を促進することで最終的に日本語活用能力が伸びたかどうかに焦点を当てて評価する。

(イ)学習者の総合的な日本語能力を向上させるように、聞く、話す、読む、書くの個別の言語機能の評価だけでなく、2つ以上の機能を統合した評価に焦点を当てる。

(ウ)日常生活で実際と同様の状況と文脈を提供し、学習したコミュニケーション表現を活用および応用できるかを評価するが、学習活動の性格に応じて流暢さと正確さの比重を柔軟に調整する。

(エ)学習者が評価を学習課程の一部として認識し、自身の学習課程と成果を振り返れるように評価を計画する。評価は学習の最終段階で成果を測定する行為を超えて、学習者が自身の学習の課程を振り返り、学習計画を自己主導的に修正・補完できるようにする。

(カ)学習者の多様な特性および日本語レベルを考慮した個別化された評価を実施する。学習者の学習スタイル、定義的な特性、日本語レベルなどを考慮し、多様な評価方法を用意し、学習者に合わせた評価が行われるようにする。特に、学習不振を経験したり、成長速度が遅い学習者が単一評価方法によって学習意欲が低下しないように、多様なタイプの評価案を設ける。

(キ)多様なデジタル評価ツールを積極的に活用する。デジタル分析・評価ツールを活用して実践的な評価文脈を提供し、多様な学習者データを体系的に構築する。

(ク)教師は評価結果を継続的にモニタリングし、教授・学習を振り返り、評価改善に活用する。学習者には個別化されたフィードバックを提供する。

(2)評価方法

(ア)総合的な言語機能に対する評価は、教授・学習過程で総合的な課題を実施しながら、協同学習課程や学習者中心の自己主導的能力を含めて評価する。

(イ)ロールプレイ、クイズ、インタビューなどを活用して、基本語彙と意思疎通の基本表現を中心に、日常生活に関連した基礎的な日本語を理解し表現する言語活動能力を評価する。

(ウ)絵、写真、メニュー表、図表、標識、略図、路線図などを活用して、日常生活の実際に近い状況と文脈を提供し、コミュニケーション表現を応用して対話したり状況を説明したりする能力を評価する。

(エ)仕事や旅行計画、アンケートなどの多様な主題や状況別内容を聞き、チェックリストの完成、空欄の穴埋め、中心内容の確認などの活動を通じて、コミュニケーションの基本表現を理解する能力を評価する。

(オ)日常生活で慣れ親しんだ簡単で易しい案内放送、広告、ポスターなどを読み、中心内容を理解し、対話したり書くことができるかを評価する。

(カ)簡単で易しいSMS、メール、ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、ウェブ文書などのデジタルテキストの主な情報を理解し、中心内容を話したり日本語で入力したりする能力を評価する。

(キ)課程を重視する評価の目的に合わせて授業中にデジタルメディアを活用した制作活動は遂行評価に活用するが、内容や表現の正確さなどを自ら点検できる多様なウェブサイトやアプリケーションを活用できるように案内したり、韓国語で発表・討論を行うなど、学習者のレベルに応じて評価する。

(ク)日本文化を調査し、絵や写真、映像を活用した創作物を作成し、ブログやソーシャルネットワーキングサービス（SNS）などのメディアを活用して共有したり発表・討論できるかどうかを評価する。

(ケ)多様な形式の形成評価や実施評価において、教師と学習者が使い慣れたオンラインプラットフォームや学習機能アプリケーションなどのデジタル評価ツールを活用して効果的かつ効率的に評価する。

(コ)評価計画を作成する際に、達成基準に基づいた最低達成水準を設定し、教授・学習活動と連携して最低達成水準を保証するための指導と評価を行われるようにする。

(サ)学習者の日本語学習レベルと個別の特性に合わせて、レベルごとの学習課題を割り当てて最低達成水準を保証し、それに対する自己主導学習能力や協力的なグループ活動での遂行役割能力、協働能力、貢献度などを教師の観察評価、自己評価、生徒相互評価など多様な方法で評価する。

[意思疎通の基本表現 - 日常生活の日本語]

|  |
| --- |
| ◦ 中学校「生活日本語」で扱うように推奨された意思疎通の基本表現である。  ◦ ここに示された表現は文の構造、文法事項などを参考にするように提示した。  ◦ ここに示された表現は地位や親密度などを考慮して、状況に合わせて使うようにする。  ◦ 丁寧語を中心に提示したが、教授・学習の状況に応じて、普通体も用いることができる。  ◦ 必要に応じて、提示されていない状況や主題を設定することもでき、省略表現など提示されていない表現も用いることができる。  ◦ 応答表現は一部「-」で提示したが、状況に応じて提示されていない表現も使用できる。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 1．挨拶・紹介 | |
| ア．出会い・別れ | おはよう。/ おはようございます。  こんにちは。  こんばんは。  ひさしぶり。/ おひさしぶりです。  げんき？/ げんきですか。/ おげんきですか。  - うん、げんき。/ はい、おかげさまで。  バイバイ。  じゃあね。/ またね。  じゃあ、また。/ では、また。/ では、また あした。  きを つけてね。/ おきを つけて。  さよ(う)なら。  げんきでね。/ おげんきで。  おやすみ。/ おやすみなさい。 |
| イ．外出・帰宅 | いってきます。  - きを つけてね。/ いってらっしゃい。  ただいま。  - おかえり。/ おかえりなさい。 |
| ウ．訪問 | ごめんください。  いらっしゃい。  ようこそ。  どうぞ あがって ください。  おじゃまします。  しつれいします。 |
| エ．食事 | いただきます。  ごちそうさま。/ ごちそうさまでした。 |
| オ．お祝い | おめでとう。/ おめでとうございます。 |
| カ．自己紹介 | こんにちは。  はじめまして。  キム⋅スジです。  かんこくから きました。  (どうぞ) よろしく おねがいします。  こちらこそ (どうぞ) よろしく おねがいします。 |
| サ．他人紹介 | ともだちの すずきさんです。  こちらは さとうさんです。 |
| シ．家族紹介 | (わたしの) ははです。  よにん かぞくです。 |
| 2．配慮・意思伝達 | |
| ア．感謝 | (どうも) ありがとう。/ (どうも) ありがとうございます。  - どういたしまして。  (どうも) ありがとうございました。 |
| イ．謝罪 | ごめん。/ ごめんなさい。  (どうも) すみません。  - いえいえ。  (どうも) すみませんでした。 |
| ウ．ほめ | にほんご、じょうずですね。  すごいですね。 |
| エ．激励・慰労 | がんばれ。/ がんばってね。/ がんばって ください。  だいじょうぶですよ。  それは たいへんですね。/ それは たいへんでしたね。 |
| オ．断り・遠慮 | それは ちょっと……。  すみませんが、あしたは ちょっと……。  もう けっこうです。  ありがとうございます。(もう) だいじょうぶです。/ (もう) じゅうぶんです。 |
| カ．謙遜 | いいえ、まだまだです。  いいえ、そんな こと ありません。 |
| キ．遺憾 | ざんねんですね。/ ざんねんでしたね。 |
| ク．承諾・同意 | ええ、いいですよ。  はい、どうぞ。  はい、わかりました。 |
| 3．情報交換 | |
| ア．存在・場所 | たなかさん、いますか。  コンビニは ほんやの となりに あります。 |
| イ．時間・時 | いま、なんじですか。  ひるやすみは 12じからです。 |
| ウ．選択 | なにに する？ / なにに しますか。  - カツどんに する。/ ジュースに します。  なにが いいですか。  - ぼくは コーラが いいです。 |
| エ．趣味・関心 | しゅみは なんですか。  - ゲームです。  どんな スポーツが すきですか。 |
| オ．確認 | これで いいですか。  わかりました。しゅくだいは あしたまでですね。 |
| 4、行為要求 | |
| ア．勧誘 | よかったら、これ どうぞ。  おちゃでも どう？ / どうですか。 |
| イ．警告 | あぶない！  きを つけて！ |
| 5．会話進行 | |
| ア．ためらい | ええと、……  あのう、……  うーん、……  そうですね(え)。 |
| イ．相槌 | うん。/ うん うん。  へえ。  そう そう。  そうですか。 |
| ウ．感心 | すごい！  わあ！  よかった！  えー！  ほんとう？ |
| エ．話しかけ | あのう、すみません。  ちょっと いいですか。/ ちょっと よろしいですか。 |